

2015年11月10日

決められない FED

公益財団法人 国際通貨研究所
理事長 行天 豊雄

「決められない FED」が国際金融市場の不安要因になっている。リーマンショック後の2009年 FED は他国に先駆けてゼロ金利と国債の大量購入という QE 政策を発動した。おかげで米国経済は大きく落ち込むこともなく、2010年からはゆっくりと着実に回復の道を歩んできた。

そうなるとう当然次の課題は何時 QE 政策を手仕舞うかということになる。国債買入れを止めて FED のバランスシートを縮小し、FF 金利をインフレ率並みに戻すことは、将来の金融変動に備えて FED として当然果すべき「正常化」のステップである。

ところが、もう2年近く市場では何時 FED が FF 金利を上げるだろうかという憶測が渦巻いているのに、一向動かないという異常な事態が続いているのである。思うに、これには二つの事情がある。一つは、昨年 FED が国債買入れをストップした時、国際金融市場ではこれが世界的な金融収縮を齎すという思惑から、途上国からの資金流出、通貨下落という混乱が起って、途上国から「米国の身勝手な金融政策」に対する非難が湧き起ったのである。

米国金融政策の正常化が国際的に一過性の影響を齎すのは当然であるが、そもそも正常化は必要かつ望ましいものなのだし、突然起るわけでもないので、反対すべき話ではない。むしろ、混乱を煽って一儲けをたくらむ投機筋こそ非難さるべきだろう。

しかし、現実問題としては、FED が正常化に対する途上国の不満・非難に直面して、慎重になったことは事実だろう。

第二の事情は、2010年代に入って、たしかに世界経済には予想外の事態が起っていることである。その最たるものは原油を始めとする一次産品価格の暴落と、それと表裏をなす世界的な成長率鈍化、就中、成長のエンジンであった中国経済の成長低下である。

FED がその金利政策を決める際に、何処迄米国外の事情を考慮すべきかは議論のあるところだろうが、まあ仕方なからう。

ということで、この二つの新しい事情の発生で FED の姿勢は必要以上に慎重、臆病になってしまった。しかも、悪いことに、事態が曖昧になったために、金利政策について FED 自身が発するメッセージが明解さと確信を失ってしまった。現在市場では、FED 内部で見解の差があると思っている者が多いただろう。議長と副議長もニュアンスが違うし、FOMC を構成する委員達が明らかな異論をメディアに語ったりする。こういうことは昔は無かったと思うし、それが議長の権威と指導力の低下を示すなら、それも問題である。

結果として、FED は何時迄経っても金利正常化の決断ができない。慎重さは大事な

時もあるが、現状は慎重さが市場での不透明さと不安定を増してしまっているように思う。常識的には、今 FED が「年末迄に FF レートを 0.25%にする。その後、3、4年かけて 2.0%にする。」と云っても大混乱が起るとは考えられない。むしろ、世界最大の米国経済が正常化の道を歩き出したという好印象が市場を安定化するだろう。曖昧な空気が続いて儲けるのは投機筋だけである。

(株式会社マネーパートナーズ ホームページへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2015 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>